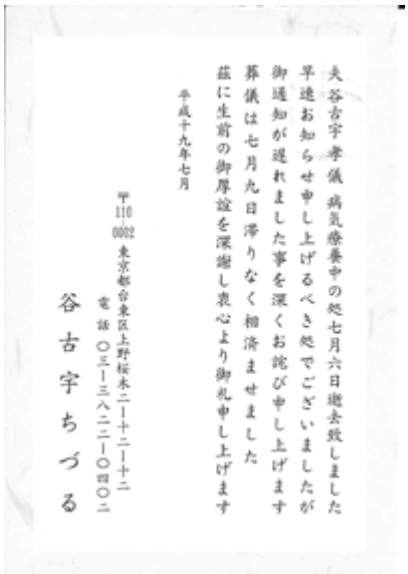

夫谷古宇孝儀 病気療養中の処七月六日逝去致しました
早速お知らせ申し上げるべき処でございましたが
御通知が遅れました事を深くお詫び申し上げます
葬儀は七月九日滞りなく相済ませました
茲に生前の御厚誼を深謝し衷心より御礼申し上げます

平成十九年七月

〒110-0002 東京都台東区上野桜木二―十二―十二
電話 〇三―三八二二―〇四〇二

谷古宇ちづる

荻原くんからの手紙(2007年8月28日付け)

拝啓、残暑厳しい折から如何お過ごしでしょうか。

私は、（自主的に）8／9～8／19まで11日間の夏休みをしたのですが、この間の暑さといったら全く耐え難いものでした。

その後も暑さは相変わらずで、少々バテています。

ところで、お知らせすることがあります。

谷古宇氏が亡くなりました。亡くなられたのは、7月6日でした。死因は、肝臓癌です。昨年の11月頃具合が悪くなり、東大病院に入院しました。診断は既に末期癌で余命半年と言うことでしたが、手術をすれば3年位は持つかも知れないとの事で（本人も自らの体力と言うより太っていて糖尿病でもあることから手術をするか否か大分迷ったのですが…石川・澤田・私も見舞った際に手術を勧めたこともあってか）12月に手術をしました。手術は成功で1月末には退院しました。その後、自宅療養をし、そこそこ良好な状態にあったようです。

ですから、快気祝いと言う訳ではないのですが、久し振りに5月16日に4人で馴染みの向島の料亭で一杯やりました。ところが、6月中旬再び具合が悪くなり東大病院に入院したところ、癌が転移していて最早手の施しようが無いとのことに至りました。6月18日に石川・澤田・私で見舞った際は、既に覚悟が出来たのか、確りした対応をしてくれました。

そして、7月6日（金）9：30に永眠されました。葬儀は近親者と極親しい者だけの密葬と言う故人の意向に従い、上野寛永寺で7月8日（日）通夜・9日（月）告別式が執り行われました。我々は家族ぐるみで付き合っていましたので、女房共々参列させて頂きました。密葬と言うことでしたので、小石川の同級生にはお知らせは控えさせて頂きましたが、献花は「小石川高校同級生」とさせて頂きました。

死に臨んだ彼は実に見事で、残された家族への配慮は本より、事務所の始末も立派につけ、我々と会って話をしている時もバタバタせず、当然涙など見せず、かといって諦めや投げやりな態度は微塵も無く、感心しました。文字通り太く短く生きたと言うと何だか余りにも素気無くていやなのですが、はっきりと立派な一生だったと言えます。我々も定年を迎え、時間も融通が利くようになり、もっと一緒に遊べる時間がとれる様になったので、もう少し長生きして欲しかったのに、残念でなりません。

先週、四十九日も終わりました。ここに改めてお知らせする次第であります。

来年のクラス会の段取りもまた貴兄にお願いすることになります。その案内の際に、谷古宇氏逝去のことも知らせて下さい。宜しくお願い致します。

閉じる